



国産木製サッシの輸出に挑む

国補助受け市場調査や販路開拓

山崎屋木工らのチーム

木曽ヒノキを使った木製サッシや木製家具を製造・販売する山崎屋木工製作所（長野県千曲市）と同サッシの設計・開発を手掛けた和建築設計事務所（同県塩尻市）ら4社でつくる企業グループは、国産木製サッシの輸出にチャレンジする。6月24日には長野市内で関係者が集まって1回目の会議を開き、今後の事業計画について話し合った。

中小企業庁の補助（JAPANブランド育成支援）を受けながら、今年度から4年間かけて市場（需給）調査か

ら始まり輸出用製品の開発、販売戦略の策定、販路開拓まで行うプロジェクト。同2社に販売担当のチャネルオリジナル（横浜市）と生産システム担当の信越工機（長野市）が加わったチームで事業を進める。また、日本木製サッシ工業会や信州木材認証製品センターなど関連団体が協力・支援メンバーとしてプロジェクトに参画する。

輸出のメインターゲットは北米市場。北米では、徹底的に合理化された大工場で生産される断熱性能1.3W/m²・Kの木製サッシが高いシェアで流

通しており、山崎屋木工製作所が現時点で生産する0.8W/m²・Kの性能を持つ木製サッシが高性能商品として十分勝負できると想定する。さらに最近、世界に広がる“ジャポニズム”への憧れや、国産のヒノキやスギが発する清涼な香りも国産木製サッシの高付加価値化につながると見込む。

今年度は市場調査のほかに、同市場の生産技術の視察・研究や現地ビルダーのニーズ調査なども行う。2年目以降は、調査をもとに開閉方式やデザインなどを決めながら輸出用の製品を

開発。その先には、北米だけでなくオーストラリアやニュージーランド、ドイツ、フランス、スイスといった国の調査も予定する。

会議で山崎屋木工製作所の山崎慎一郎さんは「ジャパンブランドは1社ではつくれない。この事業をきっかけに多くの人や企業と連携して国産木製サッシの海外販路を切り開きたい」と語った。和建築設計事務所の青木和壽さんも、連携を加速させるため「事業で得られた情報や知見は、できる限りオープン化していきたい」と話した。